

# 2015年11月研究会 研究報告

## 116、616の幅(65mm)を超えるロールフィルムカメラ

2015年11月14日

於: JCI16階会議室

会員番号0021 林 輝昭

116と616番のフィルムは、フィルム自体は同じで太軸が116、細軸が616である。この番号はコダックが付けたフィルム番号で身近な例では120や135と同じである。116、616の画面サイズは6.5×10.5cmで、120で撮る6×9cmに比べて、一回り大きなサイズである。

今回のテーマはこれより大きなサイズのロールフィルムを使うカメラについて私の持っている物の中から紹介をさせて頂きたい。

### 116、616を超えるサイズの

#### ロールフィルムの種類

ブライアン・コー(Brian Coe)著の資料から探すと表 1になる。驚くのは115の7×5インチ(18×12.5cm)の大きなサイズのロールフィルムも存在している。銀塩フィルム全盛の時代には8×10インチや5×7インチのフィルムはあったが全てシートフィルムでロールフィルムは見たことがない。特殊な例では1970年頃までの軍用の偵察機ではロールフィルムカメラ

を使用していたので、生産自体は近年まで続いていた様である。コダックは異なるフィルムに同じ番号を再利用した。1905年の126は11×14cmのロールフィルムであるが、1963年にコダパックフィルムに同じ126と付けた。110等も同じような例である。

### No.4カートリッジ コダック カメラ (写真1)

このカメラは1897年の発売である。私の所有機は最廉価モデルでレンズはF値U.S.8のラピッドレクチリニア。シャッターはT、Bに3段変速のインスタントで作動は軽快である。販売価格は25ドルであった。最も高価であったのはB&Lテッサーにボリュートシャッターの付いた型で、83ドルであった。ファインダーは縦用と横用の反射式だが、切手くらいの大きさで見当を付けるのもままならない。写真に写っているスプールは右が比較用の120で、左がこのカメラのもの。使用フィルムは104で、撮影画面は縦が5インチ(12.5cm)で横が4インチ

表1 横幅がNo.116、616を超えるサイズの  
コダックロールフィルムの種類

フィルム番号	発売年	画面サイズ	
		インチ	cm換算(公称値)
101	1895	3½×3½	9×9
103	1897	4×5	10×12.5
104	1897	5×4	12.5×10
106	1898	3½×3½	9×9
110	1898	5×4	12.5×10
115	1899	7×5	18×12.5
118	1900	3¼×4¼	8×10.5
119	1900	3¼×4¼	8×10.5
122	1903	3¼×5½	8×14
123	1904	4×5	10×12.5
124	1905	3¼×4¼	8×10.5
125	1905	3¼×5½	8×14
126	1906	4¼×6½	11×16.5
130	1916	2 <sup>7</sup> / <sub>8</sub> ×4 <sup>7</sup> / <sub>8</sub>	7×12
116	1899	2½×4¼	6.5×10.5
616	1931	2½×4¼	6.5×10.5
120	1901	2¼×3¼	6×9

出典: Brian Coe "Kodak Cameras The First hundred Years"



写真1 No.4 カートリッジコダックカメラとNo.104のスプール



写真2 画面サイズは5×4インチ(縦×横)



写真3 フィルム用バック

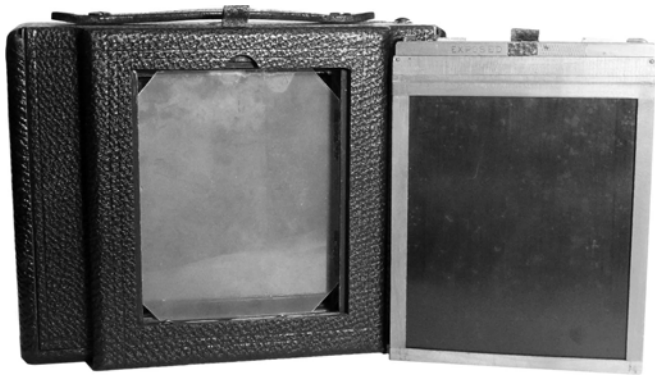


写真4 No.4カートリッジコダックカメラのピントガラスと乾板ホルダー

(10cm)である(写真2)。上下、左右のあおりが可能。乾板兼用機でバックをフィルム用から乾板用に変え、距離合わせはピントガラスを使う。乾板ホルダーは現在のシートフィルム用より少し幅が狭い(写真3、4)。

**No.2 ブルズアイ スペシャルカメラ (写真5)**

「スペシャル」の所以は、普通のブルズアイが単玉にTとIの簡易シャッター付で売価8ドルの廉価版であったのに対し、U.S.4のラピッド・レクチニア・レンズにT、B、プラス3段変速のトリプルアクションと称するセット式シャッターを採用した売価15ドルの「スペシャル」カメラであったことであろう。

焦点調節は固定式である。101フィルムを使って9×9cmの四角の画面(写真6)で、乾板は使用できない。ボディは木製、革張りで手の込んだ細工がしてある。

**No.3B クイック フォーカス コダック カメラ (写真7、8)**

125フィルムを使用する8×14cmの画面サイズのボックスタイプのカメラである。私の所有機は距離ダイヤルが丸型の最終型で、1906年製である。レンズは単玉で、実測F16、22、36の穴紋りがあり、シャッターはTとIの簡易型である。カメラとして最低限の機能のボックスカメラである。ロールフィルム専用機で乾板は使用できない。

このカメラの特徴は右側面にある距離ダイヤル(写真9)を予めセットしておいて、撮影時右側面にある隠しボタンを押すとスプリングアクションでレンズ部が出ることである。距離ダイヤルは6から100フィートまであり、6フィートでは2cmも前板が飛び出す。実際に使用してみるとクイックフォーカス機能もなんだかかな？と疑問を生ずる。

写真5→  
No.2 ブルズアイ  
スペシャルカメラ、  
No.101スプールの  
を使う。

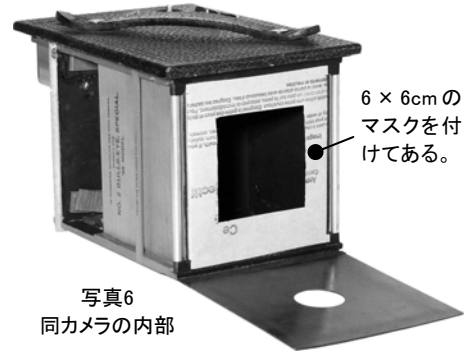


写真6  
同カメラの内部

6×6cmの  
マスクを付  
けてある。



写真9 距離ダイヤル



写真7(左)、8(右)、No.3B クイックフォーカスコダックカメラ、125フィルムを使用する。

**No.3A フォールディング ブローニー カメラ (写真10、11)**

1909年のコダック製。このカメラは122フィルムを使って8×14cmの撮影をする。前に紹介したNo.3Bクイックフォーカスと同じ画面サイズであるが、こちらのフィルムナンバーは125で画面サイズは同じだが、スプールのフランジ幅が5mmほど広い。なにゆえ異なるのかは現物がないので不明である。

レンズはU. S.4のボッシュロム製ラピッド・レクチニアで、U. S.4から128までの光彩紋りが付いている。焦点調節は、レンズボードについている6～100フィートのスケールで手送りにより合わせて行く。シャッターはT、B、Iのコダックオートマチックで鮮やかな赤蛇腹が目を引くが、少し横に間延びしたカメラである。ロールフィルム専用機。

**ロイド(No.555) (写真12、13)**

このカメラはドイツ ヒュティッヒ社で1908年に製造されたカメラである。ヒュティッヒ社は1862年創業の古いメーカーで、後にイカ社を経由してツアイス イコンに合流する。良質のカメラを作ったメーカーとして知られている。



写真10(左)、11(右) No.3A フォールディング ブローニーカメラ、スプールは122番。



↑写真13(左)ロイドの画面サイズ8×10.5cm(6×9cmのマスクが入れてある)、写真14(中央)裏蓋部、  
写真15(右)ピントグラス

←写真12 ロイド(No. 555)、124フィルムを使用。

**パール** (写真16、17)

ボディ横に丸い銘板が付いていて、「The Pearl」と表示されている。1909年(明治42年)の製品で、パール名の最初のカメラである。124フィルムを使用して8×10.5cmの画面サイズで、乾板兼用機である。レンズはU.S.8でシャッターはヴィクト名でT、B、1/10～1/100秒である。距離指針がフィルム用と乾板用の二つがある。あおりも可能で、この場合はピントグラスを使用する。

**スペシャルパール** (写真18、19)

パールの高級型で、1913年(大正2年)頃の製品である。レンズはウォーレンサックアナスタグマット F6.3/130mm、シャッターは、やはりウォーレンサック製のオブティモでT、B、1～1/300秒である。122使用で画面サイズ8×14cm。この時代の小西六製のカメラにはウォーレンサックのレンズ、シャッター付きが多くあり、パーレット等にも見られる。ファインダーは反射式の他にパールにはない透視ファインダーがついている。あおりが可能である。乾板兼用機。

**124フィルム用ロールホルダー**

(写真20、21)

番外でロールフィルムホルダーを紹介する。124フィルムを使用して、9×12cm用乾板カメラで、8×10.5cmの画面を撮るためのロールフィルムホルダーである。



写真16(左)パール、124フィルムを使う。  
写真17(上)その内部



124フィルムを使用して、8×10.5cmの画面サイズである。ロールフィルムと乾板の兼用機で、レンズはヘリオスF8/130mm、シャッターはエアポンプ式で1～1/100秒である。距離スケールにはフィルム用と乾板用の二つが刻まれている。あおりも可能で、この場合は裏

蓋をピントグラスに交換して使用する。この他に各種のレンズ、シャッターの組み合わせがあり、ダゴール付きもあった。カメラ本体は木製革張りだが、前板は当時的高级素材であったアルミニウム一枚板である(写真14、15)。



写真18(左)スペシャルパール  
写真19(上)その内部

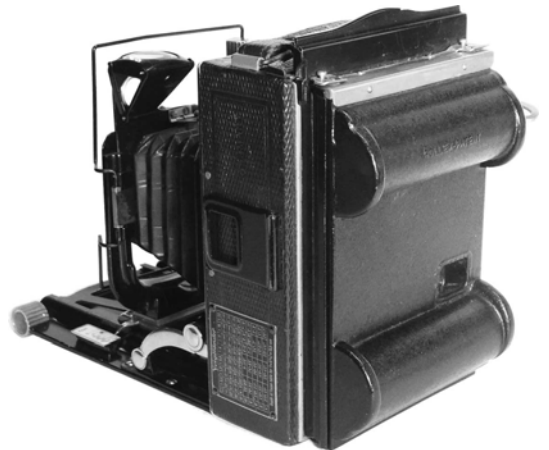


写真20 No.124フィルム用  
ロールホルダーの装着状態

120フィルムで6×9cmを撮影するよりずっと 能なので、今となつてはお飾りになっている。  
バランスが良いが、124フィルムが入手不可

#### 参 考 文 献

1. Jim, Joan Mckeown: "Collectors Guide to Kodak Cameras"
2. Brian Coe : "Kodak Cameras The First Hundred Years"
3. McKeoen's Price Guide To Antique & Classic Cameras" 12th Edition 2005-2006年版"
4. 朝日ソノラマ刊 カメラレビュー誌 No.10 「小西六カメラの歴史」
5. すぎやま こういち/直井 浩明: 「国産カメラ図鑑」
6. カメラコレクターズニュース社復刻版  
「もみじ屋カタログ 大正11年版」



写真21 124フィルムとロールホルダー